

立論作成のポイント

立論の書き方パターン

ディベートの初心者である生徒を考慮して、「立論の書き方パターン」を示しました。必ずこれに従う必要はありませんが、一つのモデルとして提示しました。

私たちが _____ 【自分たちの主張内容】 _____
を主張する根拠は〇つあります。

その第一は、 _____ 【根拠の要約】 _____、第二は、 _____、
第三は、 _____ です。

まず、第一の根拠についてご説明します。 _____ 【その根拠を裏付ける資料や
論理の説明】 _____。

もしこれを _____ 【相手の主張内容】 _____ の立場で考えるとどう
なるでしょう。 _____ 【相手の主張の問題点】 _____ このような問題
が生じてしまいます。

次に、第二の根拠についてご説明します。 _____ 【第一の説明と同様】 _____。

最後に、第三の根拠についてご説明します。 _____ 【第一・第二の説明と同様】 _____。

以上の内容をもって、私たちの立論とさせていただきます。ありがとうございました。

ポイントは「もしこれを～の立場で考えるとどうなるでしょう」です。相手の立場の弱点をつくわけです。これにより、自分たちの論理が、より説得力を増してくることになります。

「消費税は必要か」の立論

生徒が作成した原稿を読んでもありますが、論理的に甘いと言わざるを得ない部分は複数存在します。反対質問で相手側から質問されることも予想されます。また、丁寧に話そうとするあまり、敬語の使い方が適切ではないところもあります。

初心者の段階では、まずはやってみることが大切であり、一応形になっており、ディベートが成立するレベルであれば、それでよしとしました。甘さのある論理性や敬語の使い方に関しては、当該チームだけではなく、次回へ向けて全体の共通課題としました。

なお、今回の実践は、平成5年度のものであり、その当時、消費税の税率は3%でした。日本で初めて消費税が導入されたのが、平成元年4月1日です。当時は、まだまだ消費税への関心が高い時代でした。物心ついたときには、まだ消費税はなかった当時の中学生にとって、消費税もその税率も高い関心事の一つだったと言えます。

それぞれのチームの立論には、当時の時代背景や中学生にとっての等身大の疑問や不満が反映されています。また、社会科の公民の学習にもつながる内容となっています。